

## 1周年おめでとう 喫茶やすらぎ



十月十五日の日曜日、午前  
十時より秋晴れの中、北九州  
総合保健福祉センター六階に  
て、障害者で作る喫茶「やす  
らぎ」の一周年記念式典が行  
われました。来賓、合わせて  
三十名の方が列席され、門司  
掖済会病院腎友会会長の立石  
勝子氏の司会で進行しました。  
最初に江頭会長の挨拶があ  
り現在の厳しい社会状況では  
健康者でも就職は難しく、障  
害者の働く場所は殆ど無いに  
等しい、その中で障害者だけ  
の職場ができた事は透析患者  
自身の精神的治療につながっ  
ている。従業員十二名中十一

名が一年間辞める事なく働い  
てくれたことでも明らかです。  
と話されました。

続いて、福祉センター所長  
の土河誠氏・福祉センター管  
理課の清田千年氏のご挨拶が  
あり、今後でもできるだけ協力  
して行きたいとお言葉でし  
た。

次に福岡協北九州地区長の  
田子森 公氏の挨拶があり、  
最後に「やすらぎ」の早田店  
長より従業員の紹介があり、  
透析日に合わせ(月・水・金)  
(火・木・土)のサイクルで  
順調に運営されているとの報  
告がありました。

その後、喫茶「やすらぎ」  
へと場所を移し交流会があり  
ました。皆で肩を寄せ合うよ  
うに座り、和気藹々と楽しい  
一時を過ごし、終了しました。  
「やすらぎ」も「さわやか」  
も同じ小規模作業所です。お  
互いに頑張っていきたいと思  
います。



## ボランティア一年生

勝原祥蔵

物事を行うには、動機があ  
ると思う。私がボランティア  
を始めたきっかけは、去年六  
月二十二日、小山ムッコ様が  
亡くなられました。乳癌から  
腸癌へと転移して、余命6カ  
月と宣告されましたが、七年  
近く生きられた方です。アナ  
ウンサー時代に医療福祉関係  
の仕事をされ、闘病生活をす  
るようになり一九九三年に、  
ファイナルステージを考える  
会を作り、代表となられた方  
です。終末期医療の在り方に  
ついて、インフォームドコン  
セント(説明と同意)で、情  
報は医者が持っているが、患  
者が理解、納得するように説  
明を受ける権利がある、と言

うこと、在宅医療の在り方や  
ホスピスについて等、例をあ  
げ、説明や講演をされていま  
した。私も、福岡「あいわ」  
に講演のある度に聞きに行っ  
ていました。車椅子に乗っ  
たり、杖をついたりして、熱  
心に活動されていました。

退職後、市の施設や、講演  
会等を聞きに行ったりしてい  
ますが、利用するだけの受け  
身ではなく、何か自分でもで  
きるのではないかと思ひ、  
「さわやか」に申し込み一年  
になったばかりです。失敗も  
何回かしましたが、元気なう  
ちは、続けようと頑張ってい  
るところです。皆様、元気に  
頑張りますよ。

ただき現在日頃の通院、に月  
に二回ぐらいお世話になっ  
ています。  
ボランティアの市村さんが  
大変優しい立派な方でつい  
自身の愚痴を聞いてくださり  
ストレスのはけ口になっている  
私ではないかと反省しながら  
つい言っている私と思ひます。

## ボランティアさんへの感謝

門司区 K. Kさん

山の色、空の  
色と秋めいて参  
りました。「さ  
わやか」様にお  
世話になり何年  
ぐらいたるかな。  
ちょっと分から  
ないぐらい数年  
になると思いま  
す。難病連やリ  
ウマチ友の会の  
お世話をして下  
さっている林様  
より紹介してい

それなのに優しく対応してく  
ださる中にも的確な判断と思  
える返事をいただきありがた  
く思っています。  
それから片道三〇〇円の経  
費はもう少し、五〇〇円ぐら  
いでもよいと私一人の考えで  
すがそう思いましたのでつづ  
やかせていただきます。  
いつもの事務の方、送り迎  
えの方いつもありがとうございます。  
感謝。

## 編集後記

台風20号にゆきおられ、秋雨  
前線が活発になり、しばらく  
とじとの日々でしたが、今日こ  
のころはすっきりとした秋空の  
もと、朝晩の冷え込みが冬へ一  
歩近づいていることを教えてく  
れています。  
天気の良い日を選んでふとん  
干し、太陽の匂いをかきながら  
温かさの残るふとんに包まれて  
眠る幸せ。明日も良い一日であ  
りますように……。

## 寄稿

瀬戸和人

先日突然作文の依頼があり、急な話  
で文章で思いを伝える事の難しさを痛  
感している。悩んだ末最近身の周りに  
おきた事を書く事にした。

数日前会社に猫が迷い込んで来た。  
実に人に馴れた猫で、さも長く住んで  
るがごとく自分の席をきめこむ始末。  
このまま職場に置く事もできず私が持  
ち帰る事に。予想はできたが案の定突  
然の来客に大蔵省はご立腹だったが、  
子供達のフォローで何とか落ちついた

様子。ただし子供が生まれると困るの  
で避妊手術を施した。その日は痛みが  
伴うのだろう、元気がなく食欲もない。  
可哀相で介護とまではいかないが夜は  
添い寝をしてやる。

人間も動物も命の大切さは一緒でな  
ければならないと思うのに言葉が話せ  
ないだけに不憫である。  
最近動物を虐待したり、はたまた  
介護を事業化し収益が出ないとなると  
介護を必要とする人達を置き去りにす  
るがごとく、介護センターを縮小した  
りそこで働く人達をリストラしようと  
する介護とはほど遠い事がまかりとお



る心の狭い世の  
中の動きに腹立  
たしさを覚える。  
もちろん二十四時間  
体制で頑張っておら  
れる方々には頭が下  
がる思いがします。  
我が家でも猫を見て  
「かわいいね。かわいいね。」  
と言いつつ家族の一員  
にもかかわらず誰一人としてトイレの  
お世話をするものはいない。連れてき  
た手前責任もあり私がする羽目に。な  
んともお粗末ではずかしい話である。

「萩の花尾花葛花なでしこの花

女郎花また藤袴朝顔の花」

山上憶良

「秋の野に 咲きたる花を指折り

かき数えれば 七草の花」

山上憶良

万葉の歌人にも多く謳われた

秋の七草

女郎花 (おみなえし)

桔梗 (ききょう)

葛 (くず)

萩 (はぎ)

藤袴 (ふじばかま)

薄 (すすき)

撫子 (なでしこ)



ふじばかま (中国原産)

中国では蘭草といってこの草の香を愛好した。若葉を摘み取ってまげの中にしのばせたり枝葉を湯の中につけて入浴したりした。乾かして薬草として、黄疸や利尿にきくとされる。花の色は藤色、小さな頭花の筒の部分の形が袴のように見えるのでこの名がつけられた。

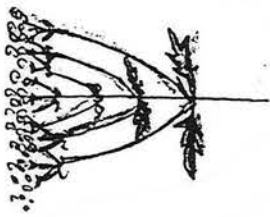
朝顔は歌が詠まれた頃は渡来していなかったか、渡来していたとしても薬用食物として種子を採る貴重品で「秋の野に咲き乱れる」ほどに普及していなかった。現在ではききょうをを当てているのが最も多い。これは平安時代の字典「新撰字鏡」に桔梗のことを「阿佐加保」とも言うて書いてあるのが根拠である。

なでしこ...ジュピターの花

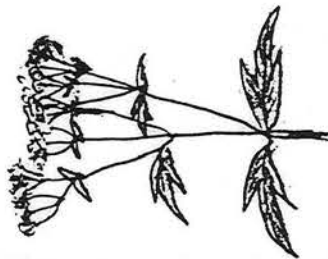
なでしこの仲間は世界に三〇〇種あまりあり、カーネーション・ヒゲナデシコ・トコナツなどは世界中で栽培されている。この仲間の学名はダイアントス (ダイアントス) でこれはギリシャ神話の中の最高の神ゼウス (ジュピター) の花という意味である。



おみなえし



ふじばかま



おんね

